

週報

こひつじ

第41巻 49号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

種蒔きのたとえ

その四 岩の上に落ちた種

第二は、岩の上である。イエスは言われた。彼の妻は脳溢血で倒れ、この手紙が書かれた数年後に亡くなって

「岩の上に落ちるとは、こういう。子どもたちも病弱で、すでに長男と次女と五女の三人を彼は喜んでみことばを受け入れるが、亡くし、三女は結核で、四女はチ

根がないので、しばらくは信じてフスで入院していた。心痛の父、いても、試練のときになると、身幾多郎は、次男の外彦に最後の望みをかけ、人生の指針を書き送ったのがこの手紙だという。以下がその一部。

根がなかったので、すぐに枯れてしまったとある。根がなかったのはなぜか。土地が浅かったから事に向かつて、まじめに長年月、努力しなければ、成功するものでもなく、また興味がでてくるもの

「深くあれ」と。だからイエスは言われた。でもない。あれかこれかとすぐに心

西田幾多郎（哲学者）が息子に書き送った手紙がある。やになるに決まっている。

書物などでも、あれも一ページこれも一ページ、語学にしてもあれも少しこれも少しというようでは遊びと同じである。何かひとつのまじめな目的に向かつて、真実に努力、奮闘せずに、ただあれもこれも少しずつかじり廻し、うすっぺらな文学などにふけているというような気分から、心の淋しさが出てくるのである。

大きい、深い人にならねばならぬ。君には、何とかしてただ一つ

のまじめな目的に向かつて邁進してもらいたいとのみ、私は思うている」

深く生きよ。うすっぺらはだめだ。真摯に生きよ。そういう内容のことが切々と書かれている。

ほんらい神の言葉は、魂の深い部分にふれて初めて力を發揮するのではないだろうか。

ある作家がこんなことを書いていた。

「最近の選挙結果を見ると、単純化した強い言葉で言い切る人にひかれる人が増えている。深くこまかい思考を放棄しているようだ」

多くの人が深く考えることをやめたため、時代の風潮に流されて

いるのではないかと著者は言う。

深く考えるには、長いスパンで過去を見ること、つまり歴史に学ぶことが必要なのではないだろうか。

歴史は偽らない。過去を振り返ってみると、結局、よいものが残り、悪いものが淘汰されている。歴史は神の審判であると言っている。

ダビデの子、アブシャロムが父ダビデに謀反を起こしたときのことで。人びとの心は年老いたダビデにつくか、若いアブシャロムにつくかで揺れ動いていた。

だが八〇歳の老人バルジライは迷わなかった。ただちに、多くの食糧を携えてダビデの支援に向かう。

それはバルジライにとって大きな決断だった。もしアブシャロムが勝てば、彼はダビデを支援した人物としてきびしい処罰を受けるだろう。それだけでなく彼の一族をも危険にさらすのである。にもかかわらず彼の決断は揺らがない

った。

なぜか。

彼はギルアデの山地から、何十年もの間、深い洞察をもって、神が人をどう扱われるかを見てきたからだ。彼は、エリ、サムエル、サウル、ダビデ、ヨナタン、ヨアブ、アブシヤロム、それらの人物

のたちの行動を遠くよりながめながら、神のなさることに一貫した法則のあることを知った。その法

則とは、間違った動機や野心からは何のよいものも生まれえないということだ。

こうしてバルジライは時代の流れを正しく読みとることができたのである。

このように歴史は人の心を深めてくれる。(続)

今日の礼拝

○礼拝は午前一〇時半から。

○教会学校は午前一〇時半から。説教は西岡潤也。

先週の礼拝

○司会は合志文利さん。

○説教は「しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです」(ルカ一〇の四二)

○礼拝参加者は八六名(男二七、女五九)、それに子どもが三名、合わせて八九名でした。

ケヴィン牧師の勧め

一月二三日、私は台湾のFMC教会に招かれ、朝の礼拝で奉仕しました。その説教のあとケヴィン牧師が以下のような勧めをされました。日本語に翻訳されたものが送られてきましたので、以下に紹介します。

今朝の米村さんの説教はすばらしく、感動しました。

一人の女性が神の召命に応え、宣教師となつて日本に来たために、米村さんはクリスチャンになり、

結果として大津教会が誕生することになりました。そして大津教会は五〇年以上も、多くの人々の祝福となつていきます。

米村さんは神に導かれて大津に

残る決心をしました。それから五

〇年後、二〇二四年の七月に私たちがFMC教会は熊本を訪ね、大津町に足を踏み入れ、大津教会を訪ねることができました。アマンダさん、インターネットでFMCの近くにある大津教会を見つけてくれたからです。こうして私たちは不思議な神の導きで大津教会とつながることができました。

熊本ではFMCの家族と時間を過ごし、彼らに任せ、彼らと共に祈ることができましたが、大津教会の皆さんも協力してくださいました。私たちはこれからも継続して大津教会とともに奉仕ができたらと願っています。そして大津教会が多くの人々の魂の家となるように祈りたいと思います。

今朝の礼拝で、神様がここにいらっしゃる一人ひとりの心に感動を与えてくださいました。神様の呼びかけに答える時間をとりたいと思います。米村さんのメッセージを通して神様はあなたに何を語りましたか。どの言葉、どの証があなたの心を動かししましたか。

宣教に重荷を持っている方もおられると思います。神様はもう一度あなたに呼びかけておられます。ぜひ、その呼びかけに応えてくださいますように。

皆さん、手をあげて日本のために祈りましょう。日本のクリスチャンが人口の一パーセントを超えますように。多くの日本人が神の国に入ることをできますように。

物質的な豊かさだけでなく霊的な豊かさも神が与えてくださいますように。多くの若者が教会に来ますように。

五〇年前、大津教会の二〇人の若者が神の呼びかけに応え、犠牲をいとわずイエス様に従い、大津教会を建てあげたように、多くの若者が神の呼びかけに応えますように。心を合わせて祈りましょう。

FMC教会のためにも祈りましょう。日本の福音宣教に参与できますように。将来熊本の地に宣教師を送ることができそうです。大津教会と続けて協力できますように。福音の種を蒔き、収穫できますように。FMC教会と大津教会が共に神の国のために奉仕できますように。アーメン